

健康経営の取り組みによるKGI改善効果の検証

当社グループでは健康経営のKGIとしてワークエンゲージメント及びプレゼンティーズムを位置付けており、それぞれ2030年度にワークエンゲージメントは5.20以上、プレゼンティーズムは36.4%以下とする中期目標を設定し、毎年度CAPDを回しています。

当社では、健康経営の注力施策として『ココロとカラダの健康づくりワークショップ※1』に取り組んできており、職場の健康づくりが「非常によく実践できた」職場において、KGIにも良い効果が生まれています。

※1：当社グループ所属の職場リーダー約300名を対象に、職場毎のココロとカラダの健康スコアレポートを基に、グループディスカッションを通じて職場におけるココロとカラダの健康づくりの振り返りと今後の計画を立てるワークショップ。ワークショップ後は計画に基づき各職場にて取り組みを推進し、3か月後に実践状況等を問うアンケートを実施している。



1. KGI（ワークエンゲージメント・プレゼンティーズム）への効果

【検証方法】

2024年度のワークショップ後における職場の健康づくり実践状況の違いにより、職場のイエルキケルスコア※2およびワークエンゲージメント、プレゼンティーズムに生まれた効果（2024年度から2025年度にかけての改善効果）を分析

※2：当社グループで重要視している職場の心理的安全性（イエル・キケル）を表わす独自指標（1点～4点で高いほど良い）

【検証結果】

- ①職場の健康づくりを「非常によく実践できた」職場において、職場のイエルキケルスコアが向上した。
- ②職場のイエルキケルスコアの向上は、ワークエンゲージメント向上につながった。
- ③さらに、職場のイエルキケルスコアの向上は、プレゼンティーズム損失の低下につながった。

2. 一人当たり生活習慣病医療費への効果

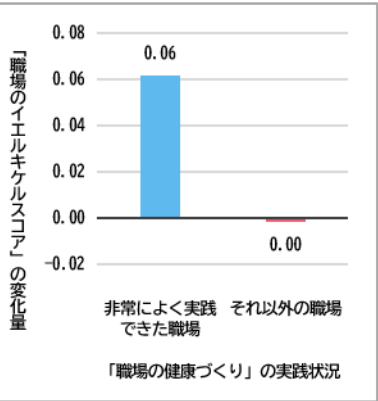
【検証方法】

2023年度のワークショップ後における職場の健康づくり実践状況の違いにより、施策参加個数、生活習慣病医療費※3に生まれた効果（2023年度から2024年度※4にかけての改善効果）を分析

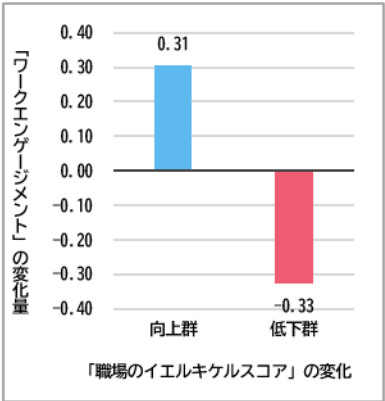
※3：生活習慣病医療費：心疾患医療費、脳血管疾患医療費、高血圧症医療費、糖尿病医療費、脂質異常症医療費を合計した医療費
※4：医療費データは確定に時間を要するため、最新年度データが未整備であることから、1年度前のデータを用いて検証

【検証結果】

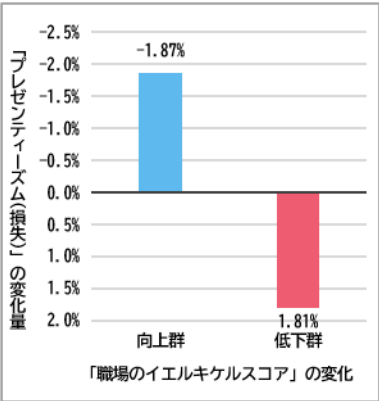
- ①職場の健康づくりを「非常によく実践できた」職場において、翌年の施策参加個数が多い。
- ②施策参加個数が増えるほど、翌年の生活習慣病医療費は減少につながった。



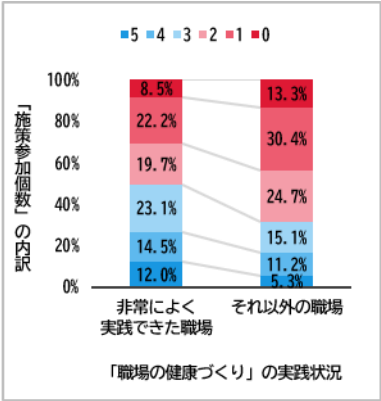
①職場の健康づくりの実践状況(2024)
▶職場のイエルキケルスコアの変化(2024→2025)



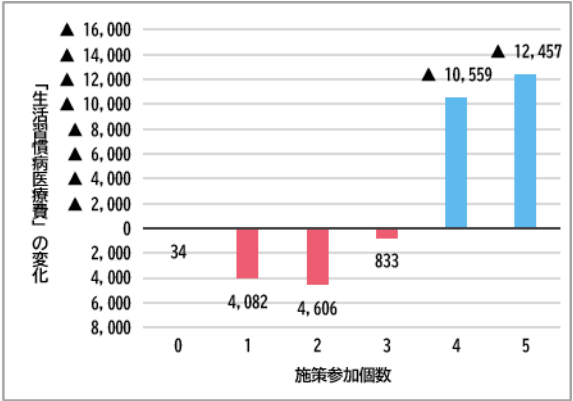
②職場のイエルキケルスコアの変化(2024→2025)
▶ワークエンゲージメントの変化(2024→2025)



③職場のイエルキケルスコアの変化(2024→2025)
▶プレゼンティーズムの変化(2024→2025)



①職場の健康づくりの実践状況(2023)
▶施策参加個数(2024)



②施策参加個数(2023)
▶一人当たり生活習慣病医療費の変化(2023→2024)